令和４年度　研究集録　「東 貴 和」

確かな学力を身につけ、心豊かに生きる児童の育成

―気づき、考え、深め、振り返る活動を通して―

～ 目　次 ～

Ⅰ　研究の概要・・・・・・・・・・・・1
　１　主題設定の理由・・・・・・・・1
　２　研究の内容・・・・・・・・・・2
　３　研究構想図・・・・・・・・・・4
Ⅱ　授業実践・・・・・・・・・・・・5
　１　算数科指導員訪問・・・・・・5
　２　国語科指導員訪問・・・・・・7
　３　指導主事訪問での授業・・・・8
Ⅲ　研究の成果と課題・・・・・・・11
Ⅳ　学習指導案・・・・・・・・・・12

岡崎市立常磐東小学校

Ⅰ　研究の概要

◆　研究主題

確かな学力を身につけ、心豊かに生きる児童の育成

－気づき、考え、深め、振り返る活動を通して－

１　主題設定の理由

本校は、全校児童４９名という小規模校である。各学級の人数が１０名以下と少ないため、自分が思ったことや考えたことを、自分の言葉ではっきりと表現しなくても、素振りや態度で推し量って生活できてしまう環境にある。そのため、自分の思いや考えを相手に伝える力が育つ場面が少ないといえる。さらに、身の周りの人や事象について、関わり合っていこうという意欲に乏しく、常に受け身になり、自分の問題として追究していく姿勢が十分でない児童も見受けられる。

「自分の思いや考えを相手に分かりやすく表現する力」や「自ら課題を見つけ主体的な追究を行い自ら解決する力」は、近年、児童に求められている必要な資質・能力である。本校児童において、これらの力を養うことは必要不可欠な取組であると考える。そして、以下に述べる過程を通し、これらの力を養うことによって、「確かな学力」が身につき、「心豊か」な生活ができると考えた。

「自ら課題を見つけ主体的な追究を行って自ら解決する力」（本校では、『自己解決力』と呼ぶこととする）を養う過程では、人・自然・社会に対して自分から関わり、問題意識をもたせるとともに、授業における学びのプロセスを確立することが重要であると考える。また、「自分の思いや考えを相手に分かりやすく表現する力」を養う過程では、表現する場を多くもつことや自分の思いや考えを伝えたいという意欲をもつことが必要である。そこで、下記に示す「学びのサイクル」を設定し、教科、領域の学習で展開していくこととした。この「学びのサイクル」における学習は、思いや考えを発表する場を保証し、課題解決のために考えを伝えたいという意欲の向上を図ることから、相手に分かりやすく表現する力を養うためにも有効であると考えたからである。

＜学びのサイクル＞
『気づく』　…自分の生活や日頃の学習から問題意識をもたせ課題に気づく場
『考える』　…気づいたことをお互いに発表して、関わり合い解決方法を考える場
『深める』　…課題の解決に向けて考えを深める場
『振り返る』…解決までの過程を振り返り成果と新たな課題を把握する場

さらに、この学習において、人・自然・社会にすすんで関わり合えるように、町探険や見学学習、体験活動などを行うことで、地域の人や自然への思いが深まり、豊かな心が育まれると考えた。

生平小とのオンライン授業＜５年生＞

２　研究内容

（１）児童の実態

○…長所　●…短所

〔学習面における実態〕

○与えられた課題や指示には真面目に取り組むことができる。

●関わり合いによる息の長い発言をもとに、他の考えを取り入れるなどの学習を構築する力が十分に備わっていない。

●自ら課題を見つけ、自ら解決しようとすることを苦手としている。

〔生活面における実態〕

○素直であり課題に対し、前向きに取り組むことができる。

●自分の考えを級友以外に伝える機会が少ない。

（２）目指す児童像

――自ら学び、解決し、積極的によりよい生活をしようとする児童――

○自ら「気づき、考え、深め、振り返る」学びのサイクルを修得し、主体性をもって物事に取り組むことのできる児童

○思いや考えを相手に分かりやすく表現することができる児童

（３）研究テーマと仮説

【研究テーマ】

確かな学力を身につけ、心豊かに生きる児童の育成

―気づき、考え、深め、振り返る活動を通して―

仮説①

教科、領域の学習で、「気づく」「考える」「深める」「振り返る」サイクルの中で協働的な学びの場を設定し、教師が適切な支援をすれば、児童自らが課題をとらえ、課題解決のために主体的に学びを追究するであろう。

仮説②

教科や領域、特別活動などの時間に「人・自然・社会と主体的に関わり合う体験活動」を充実させれば、学びに向かう力を育み心豊かな児童が育つであろう。

（４）仮説に対する手だて

仮説①に対する手だて

1　「気づく」場を**「見つけ学習」**、「考える」場、「深める」場、「振り返る」場を**「クローバー学習」**と具体的な学習方法に置き換え、教師が学習指導を展開する中で、場面の位置付けをしやすくする。

2　各教科において、自分の思いや考えの伝え合い（協働的な学び）により、仲間と関わり合うためにコミュニケーション能力の充実を図る。学習形態や発言ルールなどを工夫しながら、スキル活動を取り入れ、段階的に話す力や聞く力を高める。

仮説②に対する手だて

1　生活科や総合的な学習の時間を中心にして、学校周辺の恵まれた自然について、仲間・保護者・地域の方と関わり合う体験活動（協働的な学び）を行う。

2　特別活動（児童会活動）や行事では、全校の仲間が協力し、児童自らが豊かで楽しい学校生活づくりに参画する。

①　「見つけ学習」とは…　　「気づく」場で

「見つけ学習」とは、雑多な学習対象から自分が「あっ」と思ったり、心に響いたりした「事実」や「事象」を拾い集める学習のことを指す。

○見つけた事実や事象について、自分なりの思い（感想、解釈、理由、予想、疑問など）を書かせる。

○「見つける」、「探す」学習法であり、いわゆる「問題解決学習」法をシンプル化した学習法である。

○「見つけ学習」は、「ひとり調べ」であり、「ひとり読み」でもある。「見つけ学習」をしたうえで、学級全体の児童と話し合い、聞き合いをすることが「かかわり合い学習」につながっていく。

②　「クローバー学習（チーム学習）」とは…　　「考える」場、「深める」場、「振り返る」場で

「クローバー学習」のねらいの一つは、児童の追究や活動を見直し、個人追究の質を高めたり、深めたりすることにある。「見つけ学習」からスタートし、自分の考えを発表し、関わり合いの授業を設定する。

○問題解決的な関わり合いの場を設定することにより、話し合いを軸としながら学習内容の基礎基本や考え方の基盤を学級全体で共有することができる。

○友達の考えを聞くことにより、自分の考え方との共通点や違いに気づいたり、さらに深まった自分の考えをもったりすることができる。

○自分の考えを発信することにより、友達にヒントを与えたり、新しい考えを導き出したりすることができる。

○クローバー学習により、自分の考えに自信がもてない児童や話すことが苦手な児童が、安心して話すことができる。

自己解決力を高める授業

問題解決場面で、児童どうしの関わり合いを中心に、「見つけ学習」、「クローバー学習」に取り組み、授業の中の関わり合いを通して、児童自身が主体的となって、自ら解決していくことと考える。

3　研究構想図

校訓　求めてはげむ

- ひ　人の立場を理解し、他を思う心をもつ子（豊かな人間性）…徳
- が　がんばり努力し、真理を追究する子（確かな学力）　……知
- し　心身ともにたくましく健康な子（健康・体力）　……体

確かな学力を身につけ、心豊かに生きる児童の育成

―気づき、考え、深め、振り返る活動を通して―

めざす子供像　**自ら学び、解決し、積極的によりよい生活をしようとする児童**

自己解決力を高める授業　　**主体的活動の推進**

振り返る　　深める　　振り返る

クローバー学習　（考え、深め、振り返る）

見つけたことを発表し、関わり合う。学習問題をしぼり、解決する。

考える

人や自然、社会とのかかわ

・地域の方と関わる各種行事
・環境教育の推進
・ゲストティーチャー

見つけ学習　（気づく）

学習対象から、心に響いた「事実」や「事象」を拾い集める。

気づく

全校での取り組み

・環境・健康・安全・奉仕をテーマとした学習
・ＶＳ活動
・全校での各種行事

教　師　の　願　い

児　童　の　実　態

研究の仮説

① 教科、領域の学習で、「気づく」「考える」「深める」「振り返る」サイクルの中で協働的な学びの場を設定し、教師が適切な支援をすれば、児童自らが課題をとらえ、課題解決のために主体的に学びを追究するであろう。

② 教科や領域、特別活動などの時間に「人・自然・社会と主体的に関わり合う体験活動」を充実させれば、学びに向かう力を育み心豊かな児童が育つであろう。

Ⅱ　授業実践

１　算数科指導員訪問

（１）実施日時　　令和４年６月３０日（水）第２限（９：３０～１０：１５）
第３限（１０：３５～１１：２０）

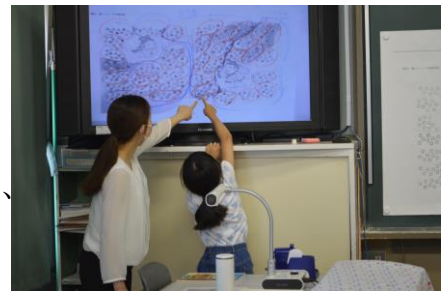
（２）実施授業　　第２限　２年１組　算数「100 を　こえる数」

第３限　５年１組　算数「合同な図形」

（３）授業指導案（１２頁～１８頁に掲載）

（４）授業の様子

＜２年１組　算数「100 を　こえる数」＞



・教科書にある多くの星の絵を印刷した学習シートを使用し１０個ずつ丸で囲んで星の数を数え、その際に各児童が工夫をして数えることができていた。
・教材提示機を利用しながら数え方の説明することを通して、数える際に✓を付けることや丸を赤色にするなどの工夫をした点を確認することができた。

＜５年１組　算数「合同な図形」＞

・各自のタブレットにスクールタクトを利用してワークシートを配付し、三角形が合同になることをタブレット上の図を操作しながら考えることができていた。
・スクールタクトの機能を利用して、チーム内で互いの考えを図を見て説明することやテレビに図を映して学級全体で検討することができた。

（５）全体協議会のまとめ（５年１組の授業について）

＜授業者の反省＞

・この単元では、内容を教科書の順番と入れ替えて、合同な三角形の作図を先に取り組んだが、その点についてご意見を伺いたい。

＜協議会の話し合い＞

・子供主体で考えて授業が進み、スクールタクトで図形を動かして上手に使っていた。また、チームの隊形にすることで、わからないところをすぐに聞くことができていた。
・基礎的な内容を繰り返し、学習している様子がわかった。子供たちが、頭の中でわかっていても、うまく説明できない様子があった。スクールタクトを利用して書かせる

と、互いに見せるだけで話し合いにならないことが多いので、口で説明するように指示するとよい。
・教科書の順番と入れ替えたことのメリットについて、どんなことがあるのか。合同になることを説明する上で、「図形の性質を用いて」を重視するとよかった。児童の発言で「長方形だから」といったことがあったが、そういった発言がよいと思った。また、課題を提示するまでの部分で、もう少し工夫があるとよかったと感じた。
・（授業者）順番を入れ替えた理由は、考える要素を増やすため。
・授業者の発言を補足して、合同な図形は対応する全ての辺の長さと角の大きさが等しいことから、授業で取り上げた三角形について、それらを全て説明しようとすると、現時点では児童にとって難しい。そこで、順番を入れ替えて、合同な三角形を作図するために必要な条件を先に学習しておくことで、全ての辺や角について等しくなることを証明しなくても合同であると考えることができ、既存の学習内容だけで説明することができるという点がメリットになる。しかしながら、実際の授業の様子を見ると「作図ができる条件」が「合同であるといえる」という子供たちの理解が十分にされていなかったように感じた。
・子供たちがタブレットを上手に使いこなしていた。大事な言葉（例えば、「合同」など）は、子供から言わせたい。チーム学習のときに、順番に言わせるなどの支援があってもいいのではないか。
・スクールタクトのよさを生かせていた。チームになったとき、男女別では話ができていたが、チーム全体での話ができていなかった。４人が難しければ、２人から始めるなどの取組をするのもよい。
・授業後、子供が正解が分からなかった、と言っていた。
・合同の条件を途中で、子供に投げかけるとよかったのではないか。タブレットをよく使いこなせていて、普段から使っていることがわかる。

（６）指導員　加藤先生のご指導
＜２年１組の授業について＞
・教師の学ぶ姿勢がすばらしい。始業・終業の子供の挨拶や手の挙げ方、返事がよい。
・授業での問い返しで、子供のよいところを引き出す。子供は、先生に認めてもらいたいと思っている。
・子供の考えが深まるためのよりどころとなるように板書をしたい。
＜５年１組の授業について＞
・図形の見せ方、図形の中に等しい部分に印をつけるなどの分かっていることを書き込むことが大切。最初に、クイズで示した図形をもっと活用できるとよかった。
・子供たちにやってみたい、考えてみたいと思わせるような導入、そして課題を。
・机間指導での声かけで、周りの子へのヒントになるようなものもあるとよい。
・図形の授業では、構成要素（辺、角、頂点）とその関係性に着目させることが大切。
・指導書などに載っている板書例が参考になるので活用したい。
・導入で、前の時間との違いは何かについて聞いてみるとよい。学び合いは、聞くことがとても大切。
・チーム学習は、個の学び。必要があれば聞けばよい。関わり合いがなくてもチーム、聞きたいときに聞けるように隊形だけは作っておく。助け舟を求める子がいたら、教えてあげる。
・梅園小のチーム学習では、プレゼンチャンス→クエスチョンタイム→合意形成（全体）のように時間を分けて実施していた。

・クローバー学習（チーム学習）が目的になってはいけない。子供たちが自力解決できるようにどんな支援をするのかが大切。
・最後に、「ね」をつけると、子供の反応を見ることができる。

２　国語科指導員訪問

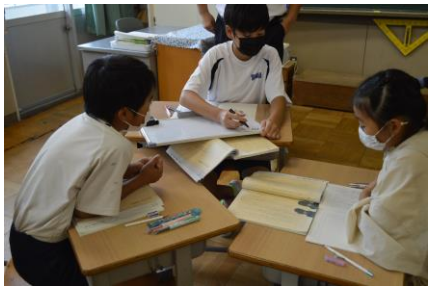
（１）実施日時　　令和４年９月２２日（水）第２限（９：３０～１０：１５）
第３限（１０：３５～１１：２０）

（２）実施授業　　第２限　５年１組　国語「注文の多い料理店」

第３限　６年１組　国語「海のいのち」

（３）授業指導案（１９頁～２３頁に掲載）

（４）授業の様子
＜５年１組　国語「注文の多い料理店」＞



・登場する二人の紳士の人物像について、文章や会話から考えることを個人追究した後に、クローバー学習で互いの考えを伝え合う場を設けていた。
・後半、指導員がＴ１となり、全体で発表された考えを紳士に関する３つの項目に分類し、その項目ごとに視点を絞って、再びクローバー学習で検討する場を設定して授業を展開した。

＜６年１組　国語「海のいのち」＞

・各自のタブレットに映し出された本文を利用し、根拠となる叙述に線を引きながら学習課題について考えていた。
・全体で意見を発表する中で、クローバー学習の隊形となり、チームで検討する場面を設けていた。

（５）全体協議会のまとめ（６年１組の授業について）
＜授業者の反省＞
・初発の感想から課題を設定して取り組んできた。今日の授業では、「海のいのち」について、なかなか深まることなく終わってしまった。
・タブレットで、第７場面の文章だけ取り上げてしまったのがよくなかったかもしれない。
・ノートや振り返りカードなどには、いい気付きや感想がよく書けている子がいた。それを授業でうまく引き出すことができなかった。

＜協議会の話し合い＞

・クローバー学習の隊形の位置がよかった。子供が黒板を確認しやすい。ノートにこれまでの授業の板書（写真）が貼ってあり、分かりやすいと思った。

・タブレットの本文に線を引くマーカーの色分けは意味があるのか。
　－特にない。ただし、意味のない色分けはしないよう伝えている。感情によって色分けをしている児童もいる。

・クローバー学習の隊形が、教師が支援しやすい形であった。教室に前時までの板書が写真で掲示してあり、振り返る際に効果的であった。

・お互いに最後まで話を聞く姿勢がしっかりとあり、６年生の人間関係のよさが伝わってきた。

・スクールタクトを使い、タブレット上で操作することで、本文に線を引き直すことが容易にできていた。

・クエに関する表現が発言からあまり出てこなかった。もう少し、クエに焦点を当ててもよかったかもしれない。

・１１時７分で、再度（チーム内で）考えさせる場面において、もう少し焦点化、発問するなどできるとよかったかもしれない。

・「殺さずにすんだ」の文に注目させることもよいのではないか。また、板書を対立させるような構成の仕方にしてもよかったかもしれない。

・再度、チームで考える場面は、どのようなねらいや意図があったのか。
　－前時までの父の教えや与吉じいさの教えなどの意見を、そこで思い出させたかったが、うまくできなかった。

・自分が授業を行うなら、まず作者について、クエや漁村について詳しく調べる活動を取り入れる。

・国語でのタブレットの効果的な使い方があれば教えてほしい。

・叙述に着目させることで、道徳との違いができていた。

・どの場面で、どのように入っていったらよかったのか教えてほしい。

・核心となる一文を子供に投げかけてほしかった。

（６）指導員　山盛先生のご指導

・５年１組の授業では、「ワードクラウド」を前時までの考えを提示する際に利用していたが、多い考えがはっきりと分かるので効果的である。

・子供たちに「思考・判断させる時間」をたくさんとりたい。

・鉛筆で実際に書く場面も大切にしたい。

・クローバー学習では、わからない子がすぐに聞き、友達に教えてあげることができていた。ずれや違いをはっきりさせて考えさせる。じゃあ、どっちかな、話し合ってみようとつなげる。そして、多種多様な意見をたくさん引き出すことが大切である。

・レベルを１～３まで設定する。（３つ線を引く。５つ線を引く。言葉でも書く。）どれにするか自己決定をさせることで、意欲や自主性を育てる。１つ達成できるごとにほめる。達成感を味わわせる。

・子供のリアクションを設定すると分かりやすく、意欲的にもなる。「グー（同じ）、拍手（なるほど）、挙手（ちょっと違う）」

・６年１組の授業は、とても難しい教材に取り組まれた。
・学びの足跡（板書の写真）が掲示やノートにあり、とてもよい。
・学校独自のクローバー学習の隊形は、黒板をすぐに見ることができてよい。真ん中の子が反対側の子に背を向けることになることが少し気になる。
・１１時７分に再度、チームで話し合う場面では、「殺さずに済んだのは誰の影響がいちばん強かったのかな」とすることで、「誰」にしぼった話し合いができたのではないか。そして、全体の場面を考えるようになったのではないか。今までのことを振り返ることができれば、太一が重視する価値観に迫ることができると考える。

３　指導主事訪問での授業

（１）実施日時　　令和５年１月１９日（木）第３時限（１０：３０～１１：１５）

（２）実施授業一覧

学級名		教科領域	単元・題材名	場所
１年１組		算　数	大きい数	１－１教室
２年１組		道　徳	よくないと思うことは	２－１教室
２年２組		算　数	１０００をこえる数	２－２教室
３年１組		図　工	のこぎりひいてザク、ザク、ザク	図工室
４年１組		体　育	器械運動（マット運動）	体育館
５年１組		理　科	電磁石の性質	理科室
５年２組		国　語	心が動いたことを三十一音で表そう	５－２教室
６年１組		国　語	さまざまな生き方について考えよう	６－１教室

（３）授業指導案（２４頁～３１頁に掲載）

（４）授業の様子

＜１年１組　算数「大きい数」＞

・児童が落ち着いて授業に取り組み、数表からきまりを見つけて、次に進むことができていた。
・クローバー学習での関わり合いを通して、答えの理由が説明できない児童が、自分なりの言葉で言うことができた。

＜２年１組　道徳「よくないと思うことは」＞

・補助発問をすることで、課題について自分のこととして考えられた意見がいくつも発表されていた。

・クローバー学習での意見の交流を通して、様々な視点で考えることで自分の思いを深めることができた。

＜２年２組　算数「１０００をこえる数」＞

・お金の模型を操作することで、課題に興味をもちながら取り組むことができていた。

・デジタル教科書の教材をタブレット端末で操作することで１００を単位とした数の大きさを捉えることができた。

＜３年１組　図工「のこぎりひいて　ザク、ザク、ザク」＞

・教師の効果的な問いかけにより、発言を引き出しながら展開することができていた。

・上手に切るこつや留意点などを伝え合いながら、角材を切断することができた。

＜４年１組　体育「器械運動（マット運動）」＞

・練習したい技に合わせて３つの場（回転技、側転技、発展技）から選択をして、すすんで取り組むことができていた。

・タブレット端末で、お互いの技を撮影し、動画を見て気づいたことを教え合うことができていた。

＜５年１組　理科「電磁石の性質」＞

・タブレット端末でスクールタクトを児童が自在に利用することができていた。

・実験結果から気づいたことをチームで考えを伝え合い、ホワイトボードにまとめることができた。

＜６年１組　国語「さまざまな生き方について考えよう」＞

・クローバー学習で、自分の考えをもちながら、すすんで発言することができていた。

・タブレット端末に取り入れた前時までの板書写真を利用することで課題を焦点化して考えることができた。

（５）ご指導のまとめ（小田 英宣 教育相談センター所長、鈴木 大 指導主事より）

・マット運動の指導では、どの学年でどの技を指導するのかきちんと把握したい。たとえば、倒立は４年生では指導する必要はない。チャレンジや応用などの技を把握した上で、やらなくてよい技について、それができないことで子供が劣等感をもってしまったり、練習してけがをしてしまったりする恐れがある。学習指導要領でよく確認したい。
・ほとんどの学級で、挙手、指名、発言といったことができていることがよい。
・チーム学習において、自分の考えを伝えて終わりになってしまっている場面があったので、他の子の意見を聞いてどうなっていくのか、次のステップを目指したい。
・子供の意見を導き出せるような発問について研究を進めたい。
・体育などもそうだが、図工の授業において教師の立ち位置に気をつけたい。のこぎりを扱っている全員を見ることができるように努めて子供を見守り、危険を回避できるようにしたい。
・子供も先生方も表情豊かで、子供がとても落ち着いて学習できているので、さらにレベルを上げて取り組んでいくようにしたい。
・環境が整っており、落ち着いた状態で、子供たちが安心して学校生活を送ることができている。
・若い先生が、支えてもらいながら育つことができている。
・ベテランの先生方は、経験値もあり安心して授業を見ることができた。
・互いの授業を見て、さらに授業力アップを図りたい。
・先生方も子供たちも、みんなよい顔をしていて、方向的にはよい方向で進むことができている。

Ⅲ　研究の成果と課題

１　研究の成果

クローバー学習（チーム学習）を取り入れ、チーム内で自分の思いや考えを伝え合いながら学習を進めることで、児童が課題をとらえ主体的に解決しようとする姿が見られた。また、多くの授業において、課題を達成する上で効果的にＩＣＴを利用することができた。

２　今後の課題

クローバー学習（チーム学習）において、課題解決に向け、論理立て意見を交換して話し合いができるように、教師支援の仕方やより考えが深まる課題の設定について検討する。

第２学年１組　算数科学習指導案

令和４年　６月３０日（木）　第２時限　　場所　２年１組教室　　指導者

１　単元　　100 をこえる数　（本時１／11）

２　本時の目標

100 をこえる大きな数の数え方について、その工夫を考えることができる。　（思考・判断・表現）

３「かかわり合い学習」において協働的な学びを展開するための手だて

100 をこえる星の数の数え方について、その工夫をチームで伝え合い、話し合う時間を設ける。

（深める）

４　展開

段階	児　童　の　活　動	教　師　の　活　動
気づく（8）	1　絵の中の星の数がいくつあるのか予想する。 ・100 個くらいあると思う。 ・100 個より多いと思う。 ・300 個くらいあると思う。	・絵の中の彦星のセリフにも着目して、星がいくつあるのか予想させる。 ・児童が進んで数えてみたくなるように「こんなにたくさんあるけど、どのように数えたらいいかな」と問いかける。
	2　本時の学習課題を把握する。	・学習課題を板書する。
	大きな数を数えるときのくふうを考えよう	
考える（7）	3　大きな数の数え方を考える。 ・各自でどのように数えると効率よく星が数えられるか、考える。 ・５のまとまりをつくって数える。 ・10 のまとまりをつくって数える。	・教科書 74，75 ページの 365 個の星を丸で囲みやすいように印刷したものを配付する。 ・「どのように数えると素早く正確に星の数を数えられるかな」と発問する。 ・戸惑っている児童には、第１学年で 10 ずつ数のまとまりに着目して数えた経験を声掛けによって想起させる。
深める（20）	4　10 個ずつ星を丸で囲み、星の総数を数える。 ・10 が 36 個と１が５個だから、全部で 365 個あった。 ・10 が 10 個で 100 になる。100 が 3 個、10 が 6 個、１が５個だから全部で 365 個あった。	・机の形をチームの隊形にさせる。 ・個人で 10 個ずつ星を囲む活動をさせる。 ・<u>うまく囲めない場合は、どのように囲んだかを話し合い、チームで助け合う。</u> ・<u>星が全部でいくつあるか各自で数え、どのように数えたのかチームで話し合うことで、様々な数え方を交流させる。</u> ・<u>100 のまとまりを使っていないチームがあれば、100 のまとまりを使っているチームの考え方を聞きに行かせる。</u>
	5　学級全体で数え方の工夫についてまとめる。 ・10 のまとまりをつくって数える。 ・10 のまとまりが 10 個で 100 になるから、100 のまとまりをつくって数える。	・チームで話し合ったことを学級全体で交流できるよう、発表させる。 ・100 のまとまりで考えられるよう、発言を整理して板書しておく。
	6　100 をこえる数の構成と読み方を理解する。 ・100 のかたまりが 1 個のときは百、３個のときは三百になることを確認し、三百と六十五で三百六十五になることを知る。 ・ノートに漢数字での書き方をまとめる。	・100 をこえる数の構成と読み方を黒板に示しながら確認させる。その際、漢数字での書き方を示す。
振り返る（10）	7　本時のまとめをノートに書き、今日の学習について振り返る。 ・大きな数を数えるときには、10 のまとまりや 100 のまとまりで数える。	・次時の授業で復習ができるように、本時のまとめをノートに書かせる。

5　評価

星の数を数える活動を通して、10 や 100 のまとまりに着目しながら、100 をこえる数を数えるときの工夫について考えることができたか。

（活動３，４の様子から）

6　板書計画

大きな数を数えるときのくふうを考えよう

教科書 74，75 ページの拡大コピー
＊児童の意見を図に書き込む

〇大きな数を数えるときのくふう
・10 ずつ数える。

〇チームでの考え
・10 のまとまりをつくった。
・10 のまとまりが 10 こで 100 だから、100 のまとまりをつくった。

100 を 3 個あつめた数は三百、
三百と六十五で、三百六十五という。

第５学年１組　算数科学習指導案

令和　４年　６月　３０日（木）　第３時限　　場所　５年１組教室　　指導者

１　単元名　　合同な図形　（13 時間完了）

（１）目標

①　身のまわりや既習の図形の見方に興味や関心をもち、合同な図形の性質調べや作図に取り組もうとする。（主体的に学習に取り組む態度）

②　合同の観点から既習の基本図形の性質を考え、合同な図形の作図や多角形の内角の和の求め方を通して形や大きさのきまり方を考えることができる。（思考・判断・表現）

③　合同の意味や性質を理解し、「頂点」、「辺」、「角」の対応を見つけて合同な図形を作図することができ、加えて多角形の内角の和についても理解することができる。（知識・技能）

（２）構想

本学級は、男子４名、女子３名、計７名で構成されている。児童らは、これまでに「体積」や「小数のかけ算」など様々な単元において、児童同士の関わり合いを通じながら学習に取り組んできた。本学級の児童は、算数を苦手とする友達に対して寄り添い、どこが分からないのかを聞いて、分かるまで工夫して分かりやすく説明することができる。これは、これまでの学年当初から進めてきた学習の成果であり、本学級児童の長所でもある「面倒見のよさ」によるものとも言える。この関わり合いによる学習形態が、苦手とする児童の「分かる」を促進させ、説明する側の児童の「理解」を深めている。しかし、児童が率先して関わり合い、互いに理解しようとする姿勢がある一方で、算数に対する全体的な親しみが薄いのも事実である。「小数のかけ算」の計算のきまりを使って計算をする学習では、計算のきまりが小数でも成り立つことをいろいろな数字を当てはめることによって実感できた一方で、練習問題に取り組んだ際には、計算のきまりを積極的に使おうとする児童は少なく、より効率的に素早く計算しようという意識にまでは至っていない。これらのことから、算数的活動に対して興味・関心をもち、算数的思考力を高めることが課題として見えてきた。

本単元の導入では、４年生までに学習してきた図形についての復習を行う。本単元では、図形の性質を使って合同について考えた後、図形の作図を行う。そのため、導入としてコンパスを使って三角形の作図を行うことや長方形や平行四辺形、台形、ひし形といった基本的な図形の性質を辺の長さや角度を測ったり、図形を操作したりしながらおさらいをして学習内容の定着を図る。こうした活動を導入時に行うことによって、本単元における児童の不安を解消させるとともに合同を考える材料となることをねらいとした。

次に合同とは図形が「ぴったり重なること」であることに、図形を操作することを通して気づかせていく。合同な図形は形も大きさも同じ図形であるという認識理解が図れたら、対応する「角」や「辺」、「頂点」といった図形の構成要素に目を向けさせて調べ活動を行っていく。さらに、合同の観点から既習の基本図形について見直させ、合同な三角形や四角形の作図を通して基本的な平面図形についての理解を深めさせていきたい。加えて、どのような三角形でも内角の和が 180°になることについて分度器で測ったり、３つの角を切り取って１点に集めたりする学習を通して、帰納的に説明する学習活動も行う。続いてこの学習を発展させ、多角形の内角の和について図や式を使って説明させる活動を行わせる。学習のまとめとして単元を振り返って図形に対する自分の考えを交流させていく。図形を作図することなどによって分かったことや楽しいと思った活動、もっと知りたいと思ったことなどを話し合わせることにより、児童がどれほど図形に対して親しみをもって学習に取り組んできたのかについて自己との対話、友達との対話を通して気づき、以降の図形領域での学習意欲に繋がることを期待している。

本時では、それまでに学習してきた図形の性質を利用し、長方形と平行四辺形を対角線で分けてできた２つの三角形が合同である理由について説明できるようにさせたい。そこで、長方形、平行四辺形、台形を提示し対角線を引くことでそれぞれ２つの三角形に分け、長方形と平行四辺形を分けてできた三角形がぴったり重なることに気づかせる。続いて、その２つの三角形が合同である理由について、長方形と平行四辺形の性質から説明させていく。このとき、合同な三角形の作図の仕方を生かすために、この内容を前時に学習するように計画した。合同な三角形は「３つの辺の長さ」「２つの辺の長さとその間の角の大きさ」「１つの辺の長さとその両はしの角の大きさ」のいずれかが分かれば作図できる考え方を利用することによって、３つの辺の長さが同じであることを説明しようとする児童や、２つの辺の長さとその間の角の大きさについて説明しようとする児童が出てくると考えた。その一方で、合同とは対応する辺の長さや角の大きさが等しくなることも学習しているため、それら全てを説明しようと思う児童も出てくることも考えられる。そのため、個人で考える時間を設けて自分の考えをまとめた後、２つのチームに分かれ自分の考えを伝え合う。そうすることで、対応する全ての辺や角が等しくなることを説明しなくてもよいことや、また等しくなることが図形の性質から説明できることに友達との関わり合いの中で気づけるようにさせていく。この一連の学習活動を通して、長方形と平行四辺形に対角線を引くことで合同な三角形ができるということが分かっただけでなく、図形の性質を利用して考え、説明するという体験を通して図形に対する興味が深まるのではないかと考えた。

本単元において、具体物を操作したり、作図をして考えたりするといった算数科の学習を通して、「楽しい」や「おもしろい」を体感させ、児童の算数に対する前向きな思いを育み、チームでの学習を通して考え方は１つではないことに気づきながら、学びを深めていくことができることを願っている。

（3）計画

学　習　課　題	学　習　活　動	時間	備　考
いろいろな図形の特徴について復習をしよう	・４年生までに学習した図形の性質等を振り返る。	1	
合同の意味について考えよう	・図形を写し取り、重ねながら合同な図形かどうか考える。	1	（「気づく」場） 図形を操作することによって「合同」とは何かに気づく。
合同の仕組みについて考えよう	・２つの図形が合同であることを、対応する辺や角などの観点から考える。	1	
コンパスや分度器を使って、合同な三角形のかき方を考えよう	・コンパスや分度器を使って、合同な三角形のかき方を考え作図する。	2	
四角形を対角線で分けてできた三角形が合同になる理由について考えよう	・長方形、平行四辺形、台形に対角線を引き、それによってできた図形が合同であるかを考える。 ・対角線で分けてできた三角形が合同になる理由を図形の性質から考える。	1 本時	（「考える」場） どうしたら合同であることを説明できるのかチームで話し合う。
長方形と平行四辺形に対角線を２本引いてできる三角形について考えよう	・前時の学習から長方形と平行四辺形に対角線を２本引くと、合同な三角形はいくつできるかを考える。	1	
合同な四角形のかき方を考えよう	・合同な三角形のかき方を使って合同な四角形のかき方を考え作図する。	1	
三角形の内角の和のきまりについて考えよう	・三角形の内角の和が 180 度であることを説明できるようにする。	1	
三角形の３つの角の大きさの和を使って角の大きさを求めよう	・前時の学習から、三角形の角の大きさを考える。	1	
四角形の内角の和のきまりについて考えよう	・四角形の内角の和が 360 度であることを理解する。	1	
多角形の内角の和とそのきまりについて考えよう	・前時までの学習から、多角形の内角の和とそのきまりについて考える。	1	（「深める」場） これまでの学習を生かして多角形の内角の和のきまりについて話し合う。

学びのまとめをしよう	・合同になる条件や多角形の内角のきまりになどについての復習をする。 ・単元のまとめとして図形についての意見交流を行う。	1	**（「振り返る」場）** 本単を振り返り、図形に対しての興味等について意見を交流させる。

2　本時の学習

（1）目標

①　２つの三角形が合同になる理由について、積極的に図形を操作して考えたり図形の性質を用いて説明したりしようとする。（主体的に学習に取り組む態度）

②　２つの三角形が合同になる理由について、図形の性質を用いて説明することができる。（思考・判断・表現）

（2）準備

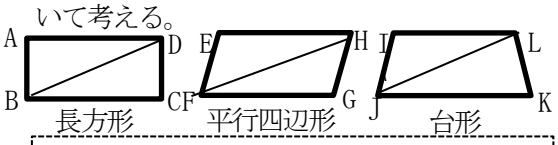
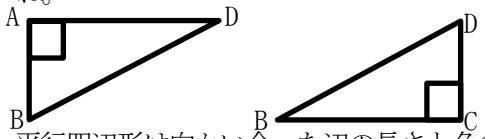
〇教師　　ワークシート（長方形と平行四辺形に対角線を２本引いたもの）
　　画用紙を長方形と平行四辺形に切り取ったもの

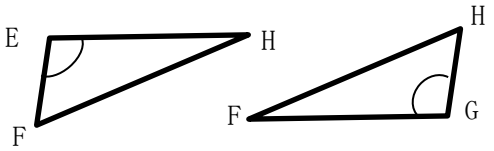
〇児童　　定規、はさみ、タブレット

（3）「かかわり合い学習」において協働的な学びを展開するための手だて

・２つの三角形が合同と言える理由について、図形の性質に基づいて説明ができるようにスクールタクトの機能を利用しながら、チームで聞き合うようにする。（深める）

（4）展開

段　階 (時間)	児　童　の　活　動	教　師　の　活　動
気づく (9)	1　四角形を対角線で分けてできた図形について考える。  ・頂点から向かいの頂点に線を引けばいいね。 ・対角線と言ったね。 ・台形は合同にならないね。 ・長方形と平行四辺形を分けてできた図形はぴったり重なったから合同だと言えるね。 ・長方形や平行四辺形に対角線を引くと合同な三角形ができるんだね。	・本時で使用する３つの図形を提示し、児童に配付する。 ・「この図形を分けて、三角形を２つ作ります。どのように分けるといいですか。」と問う。 ・ペアで確認し、配付した図形に対角線をかき入れるよう指示する。 ・対角線の向きは板書のもので統一するが、逆向きの対角線を引いても同じだと言う児童がいた場合には、「後で確かめてみよう」と伝える。 ・「それぞれの図形を２つに分けてできた三角形は合同になると思いますか。」と問い、予想させる。 ・実際に切った図形を操作して、対角線で分けた形が合同になるかどうかの感覚的理解を図る。
課題 （1）	2　本時の学習課題を確認する。 長方形と平行四辺形を対角線で分けてできた三角形が、合同になる理由を考えよう	
考える (10)	3　三角形 ABD と三角形 CDB、三角形 EFH と三角形 GHF が合同だと言える理由を考える。 ・図形の性質から辺の長さや角の大きさについて言えないかな。 ・長方形は向かい合った２組の辺の長さが等しいから辺 AB と辺 CD、辺 AD と辺 CB の長さが等しいね。角 A と角 C は直角で等しいね。  ・平行四辺形は向かい合った辺の長さと角の	・「長方形と平行四辺形を対角線で分けてできた２つの三角形は、どうして合同になるのか考えよう」と問う。 ・スクールタクトでワークシートを配付し、２つの三角形が合同になる理由を記述するよう指示する。 ・ワークシートの図形は動かせるように設定し、図形を操作する中で考えられるようにする。 ・視覚的に理解できるよう、辺の長さや角の大きさが等しい場所に色をつけるよう指示する。 ・困っている児童への支援として、「ぴったり重なる」とは辺や角がどうなっていることを言うの

	大きさが等しいから、辺EFと辺GH、辺EHと辺GF、角Eと角Gが等しいね。  	かを確認したり、学習の足跡を見るように促したりして、理由考えられるようにする。 ・辺の長さや角の大きさを全て調べている児童に対して、発想を受容した上で、「大きさを調べないで説明できないかな。」と声をかける。
深める (20)	4　合同だと言える理由をチームで話し合い検討する。 ・合同な三角形は、「３つの辺の長さ」「２つの辺とその間の角」「１つの辺とその両はしの角」のどれかを使えば描けることから考えたよ。 ・長方形は向かい合った２組の辺の長さが等しいから辺ABと辺CD、辺ADと辺CBの長さが等しくなって、辺BDは共通しているから、３つの辺について等しいと言えるね。 ・平行四辺形は向かい合った辺の長さと角の大きさが等しいから、辺EFと辺GH、辺EHと辺GF、角Eと角Gが等しいことが言えるね。２つの辺とその間の角について等しいと言えたね。	**・スクールタクトの共同閲覧機能を使い、チーム内で見合えるようにし、分からないところはチームで聞き合えるようにする。** ・机間指導の際に、困っている様子の児童に対しては過度な声かけはせず、チームの友達に聞くように促す。 ・話し合いが滞っている様子であれば、教室に掲示された学習の足跡を見るように促し、学んだことを生かして考えられるように支援する。 ・チームの話し合いの中で、辺の長さや角の大きさが等しくなることをだけを説明していた際には、どうして等しくなるのかを説明するように促し、考えが深まるように支援する。
	5　チームの考えを発表する。 ・長方形と平行四辺形のどちらも、３組の辺の長さについてと２組の辺の長さとその間の角の大きさについて、図形の性質からそれぞれ等しいことが説明できます。 ・長方形と平行四辺形を対角線で分けてできた２つの三角形は合同になります。	・代表者のタブレットをモニターにミラーリングする。 ・合同な図形の書き方、長方形と平行四辺形の性質を確認する。 ・対角線を反対側から引いたものも同じことが言えることを確認する
振り返る （5）	6　授業を通して気づいたことや感想をまとめる。 ・長方形と平行四辺形を対角線で分けてできた三角形は、合同になる。 ・合同かどうかは、対応する辺の長さや角の大きさについて全て等しくなることを説明しなくても言える。	・スクールタクトにまとめを文字で入力するよう指示する。 ・友達の考えを見られるように設定し、自分の考えを深められるよう支援する。 ・自分の考えを発表するよう促す。 ・チームでの話し合いの様子を称賛し、次時では長方形と平行四辺形に対角線を２本引くと合同な三角形はいくつできるのかを考えていくことを伝える。

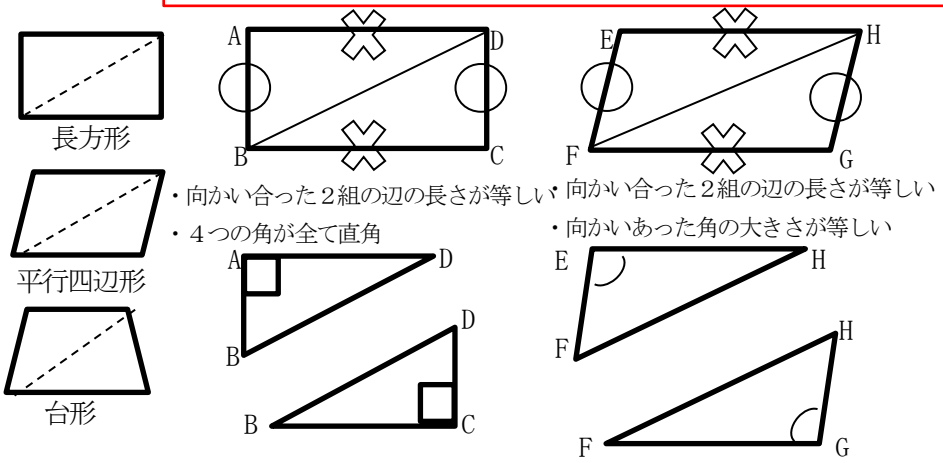
（5）評価

①　２つの三角形が合同になる理由について、タブレット上のワークシートを利用して、積極的に図形を操作したり図形の性質を用いて説明したりしようとできたか。　（活動３、５の様子より）

②　２つの三角形が合同になる理由について、辺の長さや角の大きさに着目し、図形の性質を用いて説明することができたか。　（活動３、５の様子やワークシートより）

（6）板書計画

長方形と平行四辺形を対角線で分けてできた三角形が、合同になる理由を考えよう



まとめ

・長方形や平行四辺形に対角線を引くと合同な三角形ができる。
・図形の性質から合同な図形について考えることができる。
・合同かどうかは、対応する辺の長さや角の大きさについて全て説明しなくても言える。

第５学年１組　国語科学習指導案

令和４年９月２２日（木）　第２限　　場所　５年１組教室　　指導者

１　単元　物語のおもしろさを解説しよう「注文の多い料理店」　（本時　４／８）

２　本時の目標

本文から根拠を探し、紳士の人物像について考えることができる。　（思考・判断・表現）

３「かかわり合い学習」において協働的な学びを展開するための手だて

紳士の人物像について個人追究した後、クローバー学習を行うことで自分の考えを深められるようにする。　（深める）

４　展開

段階	児　童　の　活　動	教　師　の　活　動
気づく（５）	１　前時でスクールタクトにまとめた紳士の人物を確認する。 ・命を大切にしない人 ・お金をたくさん持っている ・お金が好き ・えらそう	・スクールタクトの「ワードクラウド」を使い、児童が紳士に対してどのような思いを抱いているか全体で確認する。 ・児童がより考えたいと思えるように、「紳士はそんなにひどい人たちなのかな。」と疑問を示す。
	２　本時の学習課題を把握する。 二人の紳士はどんな人物か考えよう	
考える（15）	３　クローバー学習①【助けを求められた時に助け合う】 ・一場面に紳士のやり取りが書かれています。 ・乱暴な言葉が多いね。 ・「ぴかぴかのてっぽう」や「白くまのような犬」とあるのでお金持ちなのかな。 ４　全体共有 ・「けしからん」や「いやがらん」という言葉から自分勝手な人たちだと思うな。 ・「二千四百円の損害だ」という言葉から動物の命よりお金を大事にする人たちだと思います。	・「どこの場面を読めば紳士のこと分かるかな。」と問いかける。 ・どの文章や言葉から考えたのか分かるようにノートにまとめるように指示する。 ・クローバー学習を行い、児童が安心感を覚えることで活動５に繋がるようにする。 ・机間指導の際に、根拠を明確にしてまとめている児童を取り上げて称賛する。 ・取りかかりに困難を示す児童に対して、スクールタクトを再度確認し、どこからそれが分かるのかを探すように促す。 **・クローバー学習を行い、ホワイトボードにチームの考えをまとめる。** **・チームでの対話を通して、自分の考えを深められるようにする。**
深める（20）	５　クローバー学習②【考えを伝え合い、一つの考えにまとめていく】 ・動物の命を大切にしていないのは「犬のまぶたをちょっと返して」というところからも分かるね。 ・一人の紳士は犬が死んでしまったのに、どうしてくやしそうにしているのかな。 ・動物の命をお金として考えているからだと思うな。 ・紳士たちが動物の命を大切にしていないことが、いろんなところから分かるね。	・自分の考えを伝えるだけでなく、友達の考えに対してどう思ったのか伝えるように促す。 ・話の聞き方や反応の仕方が良い児童を称賛する。 ・紳士の人物像に迫るキーワードが分かるように、構造的な板書に留意する。 ・どちらのチームも根拠に基づいた、考えであることを認め、現時点での学級の紳士の人物像をまとめる。
振り返る（５）	６　学習のまとめをする。 ・紳士たちは、命を大切にしない人たちであることが分かった。 ・これから紳士がどう変わっていくかを知りたいと思いました。 ・動物を大切にしないから、山猫に狙われたのかなと思いました。	・本時の感想だけでなく、紳士の人物像からこの先の展開についてまとめている児童を称賛し、意図的指名に繋げる。 ・「この後紳士は変わっていくのかな。」と問いかけ、次時以降の活動に繋げる。

５　評価

根拠を明らかにして、紳士の人物像について考えることができたか。

（ノートの記述や活動４の児童の発言から）

第６学年１組　国語科学習指導案

令和４年９月 22 日（木）　第３時限　　場所　６年１組教室　　指導者

1　単元名　　「海のいのち」　（11 時間完了）

（１）目標

①　物語の構造や内容を把握し、多様な描写に着目しながら、物語の解釈や物語に対する自分の思いや考えを深めることできる。（知識・技能）

②　物語の描写や表現を根拠にして、物語の全体像や登場人物の人物像を具体的に想像したり、理解したことに基づいて自分の考えをまとめたりすることができる。（思考・判断・表現）

③　叙述に即して登場人物の関係や心情を考えながら作品を深く読み取ることのよさに気づき、読書を通して自分の考えを深めていこうとすることができる。（主体的に学習に取り組む態度）

（２）構想

本学級は、男子５名、女子５名、計 10 名で構成されている。児童らは、朝の時間や課題を終えた時間などの空いた時間を見つけては読書をしている。『銭天堂』シリーズや『５分後に』シリーズなど、不思議な世界に入り込む物語を好み、友達同士で紹介し合って読む姿も見られる。国語科の学習においても、「サボテンの花」や「風切るつばさ」を、自主的に読み進める児童もおり、物語文に対する児童の関心の高さを感じた。また、読み取りでは、サボテンの強い意志やクルルの複雑な思いなど、登場人物の関係に注目し、叙述に即して心情を考えようとするなど、深い読み取りのできる児童がいる一方、登場人物の心情を考える段階になると、「書いてないからわからない」と答えたり、一つの記述から単純な心情を考えるだけで満足したりする読み取りの浅い児童もいた。そこで授業では、発問に対して個人で考えたのち、チームでの話し合いの場を設定することで、チーム内で教え合ったり、考えを深め合ったりする学びを進めてきた。また、チーム内の意見を１つにまとめるのではなく、出された意見を全体に報告させて、意見の違いを認め合ったり、相反する意見を全体で考えたりしながら、より多くの考えに触れられるようにしてきた。こうしたチーム学習を通して、児童は、1 つの文章をじっくり味わうことのよさに気づき始めた。

本単元を通して身に付けたい力は、物語を通して理解したことをもとに、自分の考えをまとめることである。これまでに児童は、登場人物の関係や心情について、描写をもとに捉える学習を行ってきた。本単元では、既存の学習を生かした理解をもとに、自分の考えを形成することをねらいとしている。教材文「海のいのち」は、主人公である太一が、両親や与吉じいさの影響を受け、漁師としての考え方や姿勢を学び、村一番の漁師に成長する姿を描いている。また、父の死につながった「瀬の主」を追うものの、実際に対峙すると、父の仇を討たないと決める。物語では、太一の複雑な心情が暗示的に表現されていることから、登場人物の会話文や状況、細かな情景描写などをもとに、読み手が太一の心情の変化を想像して読み進める必要がある。それゆえ読み手である児童は、本文を繰り返し読み、文章の意味をじっくりと考える必要がある。また、作品のテーマが、自己の成長、家族との関わり、自然との付き合い方、命の大切さなど、様々な面から考えさせられる作品であることから、作品から感じたことをまとめ、それを友達と伝え合うことで、作品をさらに深く味わうことができるようになってほしいと願う。

本単元の導入では、これまでの物語文の学習で登場人物の心情を読み取ってきたことや友達と感じたことを伝え合ってきたことを振り返る。その後、本単元で身に付けたい力を示し、教材文「海のいのち」を読む。一人で読み取るだけでは、本作品の主題を十分に理解することは難しい。そこで、初発の感想や疑問を交流させて、学習の見通しをもたせる。多くの児童は、物語の山場である「なぜ太一は『瀬の主』を殺さなかったのか」について不思議に思うだろう。そこで、「なぜ太一は「瀬の主」を殺さなかったのか」を単元の中心発問とし、そこに至るまでの太一の成長や心情、それに関わる登場人物の存在について読み取らせていきたい。また、終末では、山場以降の太一の生き方や題名「海のいのち」の意味について考えるように仕向けることで、作品のテーマを考えるきっかけとしていきたい。続いて、物語から最も感じたことを友達と伝え合う活動を通して、物語に対する自分の考えを表現するとともに、友達の感じ方との違いに気付き、作品をより深く味わうことができるように導いていく。

本時では、単元の中心発問である「なぜ太一は『瀬の主』を殺さなかったのか」について考える。前時までに読み取った内容を生かしたり、本時の場面から根拠を見つけたりしながら考えていくが、個人では十分に思考できない児童もいるだろう。そこで、本校のチーム学習「クローバー学習」の隊形になり、チーム内の友達と意見交換しながら考えていけるようにする。また、思考時にタブレットを活用し、タブレット上に映し出した本文の、考えの根拠となる叙述に線を引くことで、叙述を意識して考えたり、友達にわかりやすく説明したりできるようにする。以上の活動を通して、本時における太一の心情の変化や物語のテーマについて考えていけるようにしたい。

本単元の学習を通して、今後の読書活動において、友達とともに、自分の読みや考えを広げたり深めたりしながら、読書の楽しさを感じていけることを期待している。

（３）計画

学　習　課　題	学　習　活　動	時間	備　考
これまでの物語文の学習を振り返り、教材文「海のいのち」を通して学ぶことを知ろう。	○これまでに学んだことを振り返る。 ○本単元の「言葉の力」を確認する。 ○「海のいのち」の題名からどんな話か想像する。 ○「海のいのち」を通読する。	1	これまでの物語文の学習を振り返り、物語を深く読み取ることのよさを想起する。
「海のいのち」を通読し、学習の見通しを立てよう。	○初発の感想を交流する。 ○学習の見通しを立てる。	1	**（「気づく」場）** 初発の感想とともに、不明確な点を意識し、読み取りの必要性に気づく。
太一の人物像を考え、場面分けをしよう。	○登場人物を確認する。 ○時や登場人物などをもとに、場面分けをする。 ○太一の大まかな人物像を考える。	1	**（「考える」場）** 物語の概要から、太一の成長と登場人物の関わりを考える。
太一が父親から受けた影響について考えよう。	○父親の生き方を読み取る。 ○父親の生き方や父親の死から、太一がどのような影響を受けたか考える。	1	
太一が与吉じいさから受けた影響について考えよう。	○与吉じいさの生き方を読み取る。 ○与吉じいさの生き方や教えから、太一がどのような影響を受けたか考える。	1	
太一と「瀬の主」との関係について考えよう。	○「瀬の主」の姿を読みとる。 ○太一の「瀬の主」に対する心情について考える。	1	
「瀬の主」を殺さなかった太一の心情について考えよう。	○殺さないと決断する前後の太一の心情を考える。 ○「瀬の主」に対する心情の変化について考える。	1 本時	**（「深める」場）** これまでの読み取りを生かし、太一の複雑な心情について想像する。
その後の太一の生き方と題名について考えよう。	○「村一番の漁師」について考える。 ○題名「海のいのち」の意味について考える。	1	
物語が自分に最も強く語りかけてきたことを考えよう。	○物語を通して、自分が最も感動したことを考えてまとめる。	1	
物語が自分に最も強く語りかけてきたことを伝え合おう。	○物語を通して、自分が最も感動したことを友達と意見交換する。	1	
これまでの学習を振り返り、自己の読みの深まりについて考えよう。	○これまでの学習内容を確認する。 ○学習を通して、考えたことや変化したことを、作品の内容面と読み取り方の２点から考える。	1	**（「振り返る」場）** これまでの学習を振り返り、自己の成長について考える。

2　本時の学習

（1）目標

①　本文の読み取りや話し合いを通して、太一の心情の変化についてのキーワードを叙述から見つけることができる。（理解・技能）

②　本文の叙述を根拠にして、太一の「瀬の主」に対する葛藤や心情の変化について考えることができる。（思考・判断・表現）

（2）準備

○教師　　挿絵、タブレット

○児童　　タブレット、振り返りカード

（3）「かかわり合い学習」において協働的な学びを展開するための手だて

・根拠となる叙述を意識しながら考えられるよう、タブレット上に映し出した本文の、太一の心情がわかる叙述に蛍光ペン機能で線を引くように指示する。（考える）

（4）展開

段　階 (時間)	児　童　の　活　動	教　師　の　活　動
気づく （3）	1　前時に学習した「瀬の主」に対する太一の思いを想起する。 ・ずっと追い求めていた。 ・父を殺した仕返しをしたかった。 ・仕返しの夢がかないそうだ。	・本時の学習内容を考える時間を十分に確保するために、第７場面の読み取りを前時と本時の２回に分けて行う。 ・前時では、「瀬の主」の様子や、「瀬の主」を殺したいと強く願っていた太一の気持ちを押さえておく。
課題 （2）	2　本時の学習課題を確認する。 なぜ太一は「瀬の主」を殺さなかったのだろうか。	・学習課題を板書する。
考える （3）	3　各自で第７場面を音読する。 ・教科書 P.121、ℓ2～P.122	・学習課題について考えながら読めるように、各自のペースで音読することを伝える。 ・読み終えたら、静かに教科書を机上へ置くように指示する。
(12)	4　チームになり、「瀬の主」を殺さなかった時の太一の心情について考える。 ・「全く動こうとしない」から、戦う意思が「瀬の主」にないので、殺しても戦ったことにならないから。 ・もりをつきだしても動かなかった「瀬の主」の死へ覚悟が伝わったのかも。 ・「ふっとほほえみ」「もう一度えがおを作った」という記述から、許してやろうと考えたのではないかな。	・クローバー学習の隊形となるように指示する。 **・タブレットの「スクールタクト」を開き、考えの根拠となる叙述に蛍光ペン機能で線を引くように指示する。（考える）** ・各自で考える時間を確保できるよう、始めの１分間は個人追究とし、その後、チームで意見交換してもよいことを伝える。また、引き続き個人で考えてもよいことを確認する。 ・机間指導で、叙述を根拠にして考えている児童を称賛する。
(10)	5　太一の心情について考えたことを全体で発表する。 ・「泣きそうになりながら」と書いてあるので、すごく迷ったのだと思う。 ・「瀬の主」も「おとう」が教えてくれた「海のめぐみ」であり、海に生きる大切な命ある存在だということを思い出したのだろう。	・個人の意見やチーム内で出た意見を全体へ発表するように指示する。また、悩んでいる点も発表してよいことを伝える。 ・太一の葛藤する思いを理解させるために、決断前の心情と殺さないと決断した時の心情に分けて板書する。 ・「『おとう』と呼んだこと」や「『海のいのち』と思ったこと」についても具体的に考えている児童を称賛する。
深める (10)	6　「瀬の主」に対する太一の心情の変化についてまとめる。 ・はじめは、父の仕返しをしたかったけど、「瀬の主」の堂々とした態度や父の教えから、大切な「海のいのち」なん	・児童が太一の心情の変化を考えやすいよう、板書を見てキーワードとなる言葉を確認する。 ・自分の考えをノートに記述するよう指示する。 ・キーワードを使って上手にまとめられた児童に発表を促す。

	だという考えに変わった。	
振り返る （５）	７　本時の学習から考えさせられたことを、振り返りカードに記入する。 ・殺したかった「瀬の主」も、自然界では大切な命だということを考えさせられた。	・本時を通して心に強く残ったことを、振り返りカードに記入するように指示する。 ・本時の内容と絡め、命や自然愛護など、物語のテーマに関わる内容について記述している児童を称賛する。

（５）評価

①　本文の叙述に線を引いたり、友達と話し合ったりすることを通して、太一の「瀬の主」に対する心情の変化や「殺さない」と決断した思いについて考えることができたか。

（活動４、５の話し合いの様子やノートの記述より）

②　話し合いで出された心情を意識することで、「瀬の主」を「父の仇」から「海のいのち」として見られるようになった太一の心情の変化をまとめることができたか。

（活動６、７のノートへの記述やワークシートより）

（６）板書計画

「瀬の主」
・岩そのものが魚、百五十キロ以上→巨大
・ずっと追い求めてきた魚＝殺したい

なぜ太一は「瀬の主」を殺さなかったのだろうか。

「瀬の主」
・全く動こうとしない
・おだやかな目で見てくる
・自分に殺されたがっている

・なぜ逃げないのか
・堂々としている
不思議
死への覚悟
超越した存在

太一
・こんな感情になったのは初めて
・本当の一人前の漁師にはなれない
・泣きそうになりながら

・いままでの魚とは違う
・倒して父を超えた漁師になりたい
何とか殺したい

・本当に殺してよいのだろうか　迷い

・ふっとほほえみ
・銀のあぶくを出した
・もう一度えがおを作った

・「海のめぐみ」である存在（父の教え）
・無駄に魚は殺さない（与吉じいさの教え）
教えを実感
殺す必要のない命

海のいのち
どんな魚も、海に生きる大切な命ある存在

第１学年１組　算数科学習指導案

３限　１年１組教室　　指導者

１　単元　大きいかず　　（本時　５／１３）

２　本時の目標

100 までの数の数字に着目して、数表の数の並び方のきまりを見つけ、説明することができる。

（思考・判断・表現）

３「気づき、考え、深め、振り返る」ための手だて

数構成や数の序列に着目して考えさせるために、表の空欄に入る数を選んだ理由について話し合う場面を設ける。　（深める）

４　展開

段階	児　童　の　活　動	教　師　の　活　動
気づく（５）	１　数表を見ながら、1～100 までを数える。 ・99 の次は 100 だね。 ・続きも言えるよ。	・正しい順序で数えられているのかを確かめるために、数字を指で指し示し、表記と読みを確認しながら唱えるよう伝える。
	２　本時の学習課題を把握する。	・学習課題を板書する。
考える（20）	かずのならびかたをしらべて、きまりをみつけよう	
	３　表を見ながら、横に見たとき、縦に見たときの数の並び方から気づいたことを発表する。 ・右へ１ずつふえているよ。 ・縦に見ると、一の位の数字は同じ。十の位は、1，2，3 と増えているね。 ・横に見ると、一の位は、1，2，3 と増えていて、十の位は同じだよ。 ・斜めに見ると 11，22，と同じ数字がならんでいるよ。	・「この表を見て、どのように数が並んでいるのか気づいたことを言いましょう。」と問いかける。 ・戸惑っているときには、横に見たときや縦に見たときの数字の並びがどうなっているのかを見つけるよう補足する。 ・見つけたきまりは、横の列を読ませる、縦の列を読ませるなどして、確かめるよう促す。 ・他の列でも成り立っているのか確認するように促す。 ・位を意識させるために、一の位や十の位という用語を使って説明している児童を称賛する。 ・きまりについては、横の列、縦の列についての見方を中心に取り扱い、斜めの見方が出された場合は紹介程度にとどめておく。
深める（15）	４　数表の空欄に入る数を考えて、なぜその数が入るのか理由を伝え合う。【クローバー学習】 ・24 です。理由は、縦に見ると、一の位が４で、十の位が 14，24，34 と 10 ずつふえているからです。 ・24 です。横に見ると、22，23，24 と、１ずつ増えているからです。	・児童の考えを掲示してある表に書き込みながら、全体で考えを共有する。 ・<u>数の並び方の規則性に気づかせるため、部分的に空欄になったワークシートを活用する。</u> ・<u>始めにワークシートによる個人追究を、次に追究結果をもとにしたグループでの話し合いを行うよう促す。</u> ・<u>グループで多様な考え方ができるよう助言しながら机間指導を行う。</u>
振り返る（５）	５　本時の学習を振り返る。 ・横の列は、十の位が同じ。右（左）へ１ずつ大きく（小さく）なる。 ・縦の列は、一の位が同じ。下（上）へ行くと 10 ずつ大きく（小さく）なる。	・前後左右の数字の並びから，数字を見つけられるように援助する。 ・机間指導で分かりやすく説明している児童を把握、指名し、紹介する。 ・空欄が 1 つのものから複数のものへ順に難易度を上げて提示し、関心を高める。 ・数表のきまりを全員で確認する。

５　評価

数表の空欄に入る数の理由を考える活動を通して、見つけた数表のきまりについて説明することができたか。　（活動４の話し合いやワークシートの記述から）

第２学年１組　特別の教科　道徳学習指導案

３限　２年１組教室　　指導者

１　主題　よくないと思うことは　Ａ〔善悪の判断、自律、自由と責任〕

教材名「どうしよう」　（本時　１/１）

２　本時のねらい

花瓶を割った友達を偶然見かけた「わたし」の行動を考える活動を通して、よいと思うことをすすんで行おうとする心情を高めることができる。

３「気づき、考え、深め、振り返る」ための手だて

友達への助言について、様々な視点で考えることができるように補助発問をしたり、チームで考えを伝え合う場を設けたりする。（深める）

４　展開

段階	児　童　の　活　動	教　師　の　活　動
気づく（５）	１ 友達のよくない行いを見たときに、これまでの自分はどうしていたかを振り返る。 ・友達に注意をする。 ・先生に言う。 ・見なかったことにする。	・本主題を自分事として捉えるために、これまでの経験を想起させる。 ・活動３以降の時間を確保するため、２、３名の児童に絞って指名する。
	２　本時の学習課題を把握する。	・学習課題を板書する。
	友だちのよくない行いを見たときには、どうしたらよいのか考えよう	
考える（15）	３　資料「どうしよう」の話を聞き、花瓶を割ってしまったゆかちゃんの気持ちを考える。 ・内緒にしようかな。 ・正直に先生に言おうかな。	・教科書の資料「どうしよう」の挿絵を紙芝居形式で黒板に貼付し、内容を時系列で把握できるように支援する。 ・「花瓶を割ってしまったゆかちゃんは、どのような気持ちだったでしょう。」
	４「わたし」はなぜ困っているのかを確認し、花瓶を割ってしまったゆかちゃんを見た「わたし」の気持ちを考える。 ・「わたし」も黙っておいてあげよう。 ・見たことを先生に言おう。	・論点を明確にするために①ゆかちゃんは、うっかり花瓶を割ってしまった。②「わたし」とゆかちゃんは仲のよい友達。という２つの点について授業者が確認する。 ・ゆかちゃんが花瓶を割ったところを見た「わたし」は、どのように考えていると思うか尋ねる。
深める（15）	５「どうしよう」と思っている「わたし」に伝えてあげたいことを考え、考えたことをチームで話し合う。【クローバー学習】 ・正直に先生に話したほうがいいよ。 ・ゆかちゃんに、謝ったほうがいいと言ってあげるといいよ。 ・ゆかちゃんに、いっしょに謝ってあげると言ってあげるといいよ。	・**「『どうしよう』と思っている『わたし』に伝えてあげたいことはどんなことですか」と発問する。** ・**自分のこととして考えることができるように、「自分が『わたし』だったらどうするか」と補助発問をする。** ・ワークシートに自分の考えを書くように指示をする。 ・**様々な視点で考えられるように、チームで意見を交流する場を設ける。**
振り返る（10）	６　よくないと思うことをするときと、よいと思うことをするときでは、気持ちにどんな違いがあるかを考える。 ・よくないことをすると不安な気持ち。 ・よいと思うことをするとすっきりした気持ち。	・授業の冒頭で振り返ったこれまでの自分と比較させ具体的に感情を引き出せるようにする。 ・自分や友達にとって、よいと思うことをすると自分の行動に自信をもつことができ、すがすがしい気持ちになることを確認する。 ・意見を板書し、学習のまとめをする。

５　評価

主人公の気持ちを考える活動を通して、よいこととよくないことの判断をし、よいと思うことをすすんで行うことを大切にしていこうとする心情を高めることができたか。

（活動５の話し合いの様子や活動６の発言から）

第２学年２組　算数科学習指導案

３限　２年２組教室　　指導者

１　単元　１０００をこえる数　　（本時　３／７）

２　本時の目標

１００を単位として、１０００をこえる数は、そのいくつ分になるかを考え、数の相対的な大きさを捉えることができる。　（思考・判断・表現）

３「気づき、考え、深め、振り返る」ための手だて

相対的な見方ができるように、お金の模型を操作したり、デジタル教科書の教材を活用したりする。

（考える・深める）

４　展開

段階	児　童　の　活　動	教　師　の　活　動
気づく（８）	１ 問題場面を把握する。 問題１　１００を２４こあつめた数は、いくつですか。 ・１００円が１０個で１０００円だな。２４個では、いくらになるかな。 ２　本時の学習課題を把握する。	・問題の内容をしっかりと把握させるために、問題文を声に出して読むように促す。 ・問題を視覚的に整理して捉えることができるように、１００円玉の模型を２４個並べたものを黒板に貼付する。 ・１００を単位として１００がいくつあるか考えると数えやすいことに気づかせるために、「１００をこえる数」の学習内容を振り返る。 ・学習課題を板書する。
	１００が何こあるかをもとに１０００をこえる数をしらべよう	
考える（10）	３　問題１についてお金の操作をして考える。 ・１００円が２０個で２０００円。残りは１００円が４個だから４００円。合わせて２４００円。	・**<u>１００を単位とした数の相対的な大きさをわかりやすく捉えさせるために、１００円玉や１０００円札のお金の模型を操作させながら考えるように支援する。</u>**
深める（22）	４　問題２についてデジタル教科書の教材を操作して考える。 問題２　３２００は、１００を何こあつめた数ですか。 ・３０００円は１００円が３０個。２００円は１００円が２個。合わせて３２個。 ５　練習問題を解く。 ・８０００円は、１０００円が８枚。１０００円は、１００円が１０個だから８０００円は、１００円が８０個分だ。 ・大きな数の計算は、１００円玉の数をたせばいいんだな。	・１００円が１０個で１０００円１枚と同じになることを確認する。 ・数のまとまりに着目して自分の考えを話していたら称賛する。 ・**<u>１００を単位とした数の構成が、視覚的に捉えやすいように、デジタル教科書の教材を操作させ、確認させる。</u>** ・問題を解くことに戸惑っていたら、お金の模型を操作して考えるように助言する。 ・６００＋８００のような計算はそれぞれ１００が何個になるかを考えた後で計算するよう助言し、支援をする。 ・教科書の練習問題の取組後は、スクールタクトの練習問題を児童のタブレットに配信し、取り組むように促す。
振り返る（５）	６　本時の学習を振り返る。 ・１００を１０個ずつまとめて、１０００や２０００を作り、残りが何百かを調べればよいということがわかりました。	・書く内容に戸惑っていたら、板書やノートを見ながら本時の授業を振り返ってみるように助言する。

５　評価

１０００をこえる数について、お金の模型を操作することやデジタル教科書の教材の活用することで、１００を単位として数を相対的に見てその大きさを捉え、説明することができたか。

（活動３、４の発言内容、活動５のノートの記述から）

第３学年１組　図画工作科学習指導案

３限　図工室　　指導者

１　単元　のこぎりひいて　ザク、ザク、ザク　　（本時　１／４）

２　本時の目標

のこぎりの正しい使い方を知り、自分の切りたい大きさに角材を切ることができる。　（知識・技能）

３「気づき、考え、深め、振り返る」ための手だて

のこぎりを正しく使って木を切断する技術を習得できるように、子供同士で学び合い、教え合うことができる場の設定をする。　（気づく）

４　展開

段階	児　童　の　活　動	教　師　の　活　動
気づく （5）	1 切る前の角材やのこぎりで切断された木片から組み立てられた作品を見て、その特徴や作り方を考える。 ・わたしも作ってみたい。 ・のこぎりで切ったのかな。大変そうだ。 ・いろいろな形を組み合わせたいな。 ・小さく切るのは難しそうだなあ。 2 本時の学習課題を把握する。	・意欲をもって学習が進められるように、木材や木切れを十分に用意する。 ・様々な形の木片を組み合わせて作った作品を紹介し、作ってみたい物のイメージを膨らませるとともに、必要な材料や道具に目を向けさせる。 ・共同の材料置き場と個別の用具置き場や作業場を分け、安全を確保する。 ・学習課題を板書する。
	のこぎりの使い方を知って、上手な切り方を考えながら木材を切ろう	
考える (10)	3 角材を切断する様子を見て、気づいたことを話し合う。　【クローバー学習①】 ・のこぎりを何回も動かしていた。 ・あっという間に切ることができるね。 ・片方の手で押さえていたよ。 ・上手に切るこつを知りたいな。	・のこぎりの各部の名称や用途を説明し、角材を切ってみせる。 ・作業台（椅子）の置き方、のこぎりの動かし方、角材の押さえ方に照準を合わせて再度、示範し、児童の反応に合わせて補足説明をするようにする。
深める (25)	4 のこぎりを使って、角材を切断し、気づいたことやうまくいかないことなどについて、伝え合い留意点やこつを共有しながら作業を進める。 【クローバー学習②】 ・のこぎりを大きく動かすと、あっという間に切れるよ。 ・刃が横にゆれないようにするといいよ。 ・押さえていても、木が動いちゃうよ。 ・体重をかけたり、足で押さえたりするのもいいよ。 ・のこぎりの角度を変えながら切るとうまく切れたよ。	・作業時間を十分確保できるように留意する。 ・作業しないときの置き方、持ち運び方を説明した上でのこぎりを配付し、安全に気をつけて作業を始めるよう指示する。 ・**<u>作業机を周囲に寄せて教室の中心に十分な作業スペースを取り、安全な状態で互いの様子を見たり、声をかけたりできるようにする。</u>** ・それぞれの進み具合や取り組みの様子に合わせて助言したり称賛したりする。 ・児童の様子や気づきをもとに、ポイントとなる共有すべき事柄を取り上げ、全体で確認しながら作業を進めさせる。 ・様々な形に切りたいという児童の思いに応えられるよう万力やクランプを準備するとともに必要に応じて使い方を確認する。
振り返る （5）	5 切断した木片を見せ合い、気づいたことを発表しながら本時の学習を振り返る。 ・木を切ると、いいにおいがしたね。 ・難しかったけど楽しかった。 ・この木を使って何を作ろうかな。 6 片付けをする。	・のこぎりを使ってみた感想や気づいたことを交流させ、どのように使うとよいのかを確認できるようにする。 ・切った木材を組み合わせて、どんな形を作りたいかを発表し、次時への活動につなげる。 ・安全に気をつけて片付けるよう指示する。

５　評価

角材を切ることを楽しみながら用具の扱い方に親しみ、様々な大きさの角材を切ることができたか。

（活動４の様子、５の木片から）

第４学年１組　体育科学習指導案

３限　体育館　　指導者

１　単元　器械運動（マット運動）　（本時　３／６）

２　本時の目標

スムーズな動きでタイミングよく技ができるようにポイントを意識して、互いの考えを伝え合い、工夫して練習ができる。（思考・判断・表現）

３「気づき、考え、深め、振り返る」ための手だて

技のポイントを意識できるように撮影した動画を見合って話し合う場を設定する。（深める）

４　展開

段階	児　童　の　活　動	教　師　の　活　動
気づく (10)	１　2列横隊で整列し、服装や健康状態を互いに確認する。 ２　準備運動、補助運動を行う。 ・ランニング、柔軟、関節の運動 ・走ると体が温まって体が動きやすくなるね。 ３　本時の学習課題を把握する。	・正確な行動ができているか、顔色はどうかなどを注意して観察する。 ・鬼ごっこをするときに速く走ったり、急に止まったりするように助言する。 ・筋肉をしっかり伸ばし、ゆっくりと関節の可動範囲を広げるように指示する。 ・運動中に呼吸を止めないことを確認する。 ・学習課題を板書する。
	スムーズな動きでタイミングよく技ができるように、技のポイントを意識して練習に取り組もう	
考える (10)	４　練習したい技に合わせて場を選択し、練習する。順番を待つ間は、友達の技をタブレットＰＣで撮影する。【クローバー学習】 ・回転技・倒立技・発展技の場 ・まっすぐ後転ができるようにしたいな。 ・自分で倒立ができるようにしたいな	・誰のどの部分に注目すべきかを確認させる。 ・回転技、側転技、発展技の３つの場を用意しておく。 ・補助の方法や技のポイントなどを想起しながら、動画撮影、視聴するように助言する。 ・意欲的に練習をしている児童や、友達と協力している児童を称賛する。
深める (15)	５　撮影した動画を見て、技のポイントを意識できているか確認する。 ・開脚後転…後転は最後にマットを押して起き上がるようにする。 ・倒立、倒立前転…倒立をするときは足をチョキにして後ろ足から上げ、マットを見るようにする。 ・側方倒立回転…手がマットに着く直前に体をひねり横向きになるようにする。 ６　技のポイントを意識して練習をする。 ・技のポイントがわかったよ。 ・ポイントに気をつけたらできたよ。	・「楽しい体育」に示された技のポイントを確認できるように、動画を見て。技のポイントを押さえて練習している２～３名の児童に演示させる。 ・技をする際の呼吸の有無と呼吸のタイミングについて助言する。 ・確認したことを生かして、技のポイントを意識しながら練習している児童を称賛する。 ・倒立系の技に取り組む児童の補助をし、活動の安全を確保する。
振り返る (10)	７　整理運動を行う。 ８　本時の学習を振り返る。 ・技のポイントがわかることは「できる」への近道だね。	・動きを示範しながら、ゆっくりと体を動かすように指示する。 ・技のポイントに気をつけながら、練習に取り組んでいた２～３名の児童を指名する。

５　評価

安定した動作でタイミングよく技が行えるように、友達と意見交換をしながら、技のポイントを意識した練習ができたか。（活動５の発表、活動４、６の練習から）

第５学年１組　理科学習指導案

３限　理科教室　　指導者

１　単元　電磁石の性質　　（本時　７／１１）

２　本時の目標

アーテックロボ2.0の活用により、コイルの巻き数が多くなるにつれて電磁石の強さも大きくなることに気づくことができる。　（思考・判断・表現）

３「気づき、考え、深め、振り返る」ための手だて

実験の際にアーテックロボ2.0を使い、電磁石の強さを数値化することによって、コイルの巻き数と電磁石の強さの関係を捉えやすくする。　（考える）

４　展開

段階	児童の活動	教師の活動
気づく（5）	1　前時の学習を振り返る。 ・コイルの巻き数を50から100にすると電磁石の強さは大きくなったね。	・本時の課題を設定するために、前時の振り返りやアーテックロボ2.0を使った実験の様子をモニターに映す。
	2　本時の学習課題を把握する。	・学習課題を板書する。
	コイルの巻き数と電磁石の強さの関係について考えよう	
考える（15）	3　実験方法を確認し、結果の予想をする。 ・コイルの巻き数を 150、200 にして電磁石の強さを測ればいいね。 ・アーテックロボ 2.0 を使えば数値で電磁石の強さを表すことができるね。 ・巻き数が多くなるほど、電磁石の強さを表す数も大きくなると思う。	・前時に考えた実験方法をモニターに移す。 ・コイルの巻き数と電磁石の強さの関係について予想させ、板書する。 ・実験の予想をする際に困っている児童に対して、前時に行った実験結果を確認するよう促す。 ・スクールタクトでワークシートを配付する。
	4　電磁石の強さを調べる実験に取り組む。【クローバー学習①】 ・変える条件はコイルの巻き数で、変えない条件は電池の数だね。 ・コイルの巻き数が 50 増えると、電磁石の強さはどれくらい大きくなるのかな。	・本実験での条件の設定について「変える条件」と「変えない条件」を確認する。 ・実験はペアで行い、必要であればチームのもう１ペアに助けを求めるよう伝える。 ・**<u>前時に保存したスクリプトを使いアーテックロボ2.0を利用すれば、電磁石の強さを数値化できることを確認する。</u>**
深める（15）	5　チームで実験結果を共有する。 ・コイルの巻き数を 150、200 にすると電磁石の強さは大きくなったよ。 ・クリップの数よりも数値で表すことができると関係について考えやすいね。	・話し合いの時間を確保するために、実験結果の共有は全体ではなくチーム内で行う。 ・チーム内で実験結果に大きな差がでたときは再度実験をしてもよいことを伝える。
	6　チームで考えを伝え合う。【クローバー学習②】 ・コイルの巻き数を 50、100、150、200 にすると電磁石の強さもそれにつれて大きくなったね。 ・コイルの巻き数を増やせば、電磁石の強さは大きくなることが分かったから、たくさんのクリップが取れそうだね。	・実験結果の数値を報告するだけでなく、自分の考えを伝えている児童を称賛する。 ・気づいたことや考えたことをまとめることができるようにホワイトボードを用意する。 ・チームで話し合ったことを発表させ、コイルの巻き数と電磁石の強さの関係について結論付けていく。
振り返る（10）	7　本時の学習を振り返る。 ・アーテックロボ 2.0 を使うと数値で表すことができるから分かりやすいね。 ・電池の数を増やしていくと電磁石の強さは強くなっていくのか実験したいな。	・共同閲覧モードした際に、見やすくするために、「分かったこと」「今日の授業の感想」「調べてみたいこと」で色分けをしてまとめをするように伝える。

５　評価

前時と本時の実験の結果から、コイルの巻き数と電磁石の強さの関係に気づき、説明することができたか。　（活動６の話し合いの様子から）

第５学年２組　国語科学習指導案

３限　５年２組教室　　指導者

１　単元　心が動いたことを三十一音で表そう　（本時　３／４）

２　本時の目標

自作の短歌を見直し、発見や感動がよく伝わるように短歌を仕上げることができる。

（思考・判断・表現）

３「気づき、考え、深め、振り返る」ための手だて

比較して考えたり、振り返ったりできるように、見直す前と後の短歌作品を黒板に掲示する。

（考える・振り返る）

４　展開

段階	児　童　の　活　動	教　師　の　活　動
気づく（８）	１ 小学生が作った短歌を鑑賞する。 例　投げつける　大きなかたまり　雪合戦 わたしも当てられ　こおりそうだよ ２　本時の学習課題を把握する。	・児童が聞き取りやすいように、教師は児童の方を向き、ややゆっくりとした速さ、やや大きな声ではっきりと話すようにする。 ・児童が予想して短歌を完成できるように、五文字、七文字に区切ったカードを用意する。 ・学習課題を板書する。
	自分の発見や感動がもっと伝わる短歌に仕上げよう	
考える（12）	３　教科書の短歌作品から見直すポイントをつかむ。 前：お正月 家族みんなで 過ごす夜 なべの後には こたつでみかん 後：お正月 家族とこたつ 入る夜 みかんひんやり 心ぽかぽか ・「こたつでみかん」が「みかんひんやり」に場所と表現がかわったよ。 ・「ぽかぽか」という言葉から、あたたかさが伝わるね。	・**教科書に掲載されている、見直す前と見直した後の２つの短歌作品を比較して考えることができるように、黒板に掲示する。** ・見直した言葉や場所を確認し、見直し後の短歌の感想を尋ねる。 ・言葉を選び直したり、言葉の順序や組み合わせを入れ替えたりするなど、見直すポイントを具体的に示す。 ・教科書Ｐ２０９「言葉の力」を読み、参考にするとよいことを伝える。
深める（20）	４　作った短歌を推敲して仕上げる。 ・言葉の順番をかえてみようかな。 ・音や様子を表す言葉を考え直してみよう。 ・気持ちを表す言葉は、もっと表現をくふうできないかな。 ・いくつか案を作ってみて、一番いいものを選ぼう。	・前時に自分が作った短歌を「五・七・五・七・七」のリズムを確かめながら、声に出して読むように促す。 ・見直すポイントを参考にしながら、発見や感動がもっと伝わるように考えさせる。 ・思いつかないときは、見直しのヒントを助言する。 ・「うれしい・楽しい・さびしい・おどろいた」などの、直接的に気持ちを表した安易な言葉でなく、自分らしい表現を考えられるよう支援する。 ・自分なりの工夫した表現を認め、称賛する。 ・全ての音数を確認しながら、自分の短歌を短冊に書いて清書することを伝える。
振り返る（５）	５　本時の学習を振り返る。 ・わたしの気持ちがよく伝わる短歌になってうれしい。	・**表現を工夫したところがよくわかるように、前時と本時の作品を掲示する。** ・短冊に書いた自分の短歌を声に出して読ませ、本時の振り返りをするように伝える。

５　評価

言葉を選び直したり、言葉の順序を入れ替えたりして自作の短歌を見直し、発見や感動がよく伝わるように仕上げることができたか。　（活動４の様子、清書した短冊から）

第６学年１組　国語科学習指導案

３限　６年１組教室　　指導者

１　単元　さまざまな生き方について考えよう「プロフェッショナルたち」　（本時　５／８）

２　本時の目標

３人のプロフェッショナルの考えや行動についての共通点に気づき、分かりやすい言葉にまとめることができる。（思考・判断・表現）

３「気づき、考え、深め、振り返る」ための手だて

前時までの学習をふまえて考えられるよう、タブレット上に前時までの板書の写真を映し出し、それに書き込みながら考えをまとめるように伝える。（深める）

４　展開

段階	児　童　の　活　動	教　師　の　活　動
気づく（５）	１　3人の名前と職業を確認する。 ・勝俣悦子　海獣医師 ・国村次郎　板金職人 ・杉野英実　パティシエ	・３人の写真を黒板に貼る。 ・どんな苦労や経験をしてきた人か思い出せるよう、前時までのノートを見直すように促す。
	２　本時の学習課題を把握する。	・学習課題を板書する。
	三人のプロフェッショナルたちの考え方を比較し共通点をまとめよう	
考える（15）	３　３人の「考えるプロフェッショナルとは」を読み取り、発表する。【クローバー学習①】 ・根っこはゆるがなくて動かない人 ・わざをみがきあげる人 ・自分の職業をひたすらきわめていく人 ・あきらめないで自分を高めていく人	・学習課題について考えながら、３人の「考えるプロフェッショナルとは」を黙読することを伝える。 ・クローバー学習の隊形となるように指示する。 ・３人の考えるプロフェッショナルの条件についてチーム内で考えを確認するよう促す。 ・読み取ったことを学級全体で発表するように指示する。
深める（20）	４　３人の考えや行動の共通する点をまとめる。【クローバー学習②】 ・あきらめないことが共通している ・夢に向けて迷わずにやり続けていた ・動物や客のためにもっとよくしようと努力している	・発問「３人の考えや行動で、どんなことが共通していると思いますか。これまでの学習や３人が考える『プロフェッショナルとは』を比べて考えましょう。」 **・タブレットの「スクールタクト」を開き、前時までの学習（板書写真）の中で、プロフェッショナルの共通する考え方や行動だと思う箇所に色ペンや蛍光ペンの機能で印をつけるように指示する。** ・自分の考えをノートに記述するよう指示する。 ・机間指導で、共通する点をキーワード（下線部）に置き換えて表現している児童を称賛する。
振り返る（５）	５　本時の学習を振り返る。 ・プロフェッショナルの人たちは、あきらめなかったから成功していると感じた。 ・ぼくも早く夢を見つけ、その分野の本を読んだり調べたりしながらきわめていこうと思った。	・本時の学習を通して、自分が共感できると思う考えについてまとめるように促す。 ・次時は、「My プロフェッショナルとは」を文章にまとめることを伝える。

５　評価

３人のプロフェッショナルの考えや行動を比較することで共通点を見出し、端的な言葉でまとめることができたか。（活動４のノートの記述や話し合いの様子から）